

(総合研究報告書)

21 分指－8－④ がんの代替医療の科学的検証に関する研究

山下 素弘 国立病院機構 四国がんセンター・呼吸器外科

研究の分類・属性

内科系

研究の概要

補完代替医療（CAM）の効果や副作用を科学的に明らかにし、がん患者さんや医療者にも正確な情報を提供することを目的に、がん領域で臨床試験を実施し、新たなCAMの効果やがん治療支持効果を評価し報告する。鍼治療ががん化学療法の新規障害の副作用軽減や、終末期各種苦痛症状緩和に有効であることを明らかにした。がん治療における歩行による運動療法や、プロバイオティクス併用の臨床試験を行い成果を報告する。以前作成したがん代替治療のガイドブックに、新たなデータを盛り込み改訂し、このガイドブックを用いたがん治療の服薬指導での情報解析を行い、CAMにおける医療情報コミュニケーションに役立つ医療従事者向けのがんの補完代替医療（CAM）診療手引きを作成した。

研究経費

年度	
平成21年度	12,300 千円
平成22年度	11,160 千円
平成23年度	7,812 千円

研究班の組織

山下 素弘	国立病院機構四国がんセンター・第一病棟部長	がん患者の運動療法に関する臨床試験
伊藤 壽記	大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座・寄附講座教授	がんの患者の補完代替医療に関する臨床試験
大野 智	早稲田大学・客員主任研究員（客員准教授）	各種がんの代替医療におけるエビデンスの収集と情報提供およびヒト臨床試験の実施
大坂 巖	静岡県立静岡がんセンター・緩和医療科部長	がん患者における苦痛症状に対する鍼治療の有用性の検討
今津 嘉宏	北里大学薬学部	がん診療における漢方薬に対する意識調査

坪井 正博	神奈川県立がんセンター・呼吸器外科医長	腸陽性ラクトフェリンを用いたがんの代替医療の科学的検証に関する研究
山地 太樹	国立がん研究センター 予防研究部・研究員	がん患者の運動療法に関する臨床試験

研究の目的と到達目標及び実績要点

補完代替医療（CAM）の効果や有害事象を科学的根拠に基づいて明らかにし、がん患者のみならず医療者にも正確な情報を提供することを目的に、がん領域でのあらたなCAMの効果やがん治療支持効果を評価する臨床試験を実施し報告する。到達目標としては、過去に作成したがん代替治療のガイドブックに、新たな知見を盛り込み改訂し、さらなる情報収集・解析を行い、新たに医療従事者向けの診療手引きを作成し、がん治療におけるCAM利用の混乱を整理解消に役立て、患者および医療者にとっても無駄な身体的経済的負担を軽減させる。また、がん治療におけるCAMの支持効果が明らかにすることで、患者のがん治療における肉体的精神的負担の軽減に役立てる。

実績要点としては、鍼治療ががん化学療法の神経障害の副作用軽減や、終末期各種苦痛症状緩和に有効であることを明らかにした。がん治療中からの歩行による運動療法では患者のQOL低下の防止や副作用軽減効果を症例集積中であり、がん化学療法におけるプロバイオティクス併用による効果検証では第I相臨床試験を行っている。がん治療における漢方薬利用のアンケート調査を実施し、医師、薬剤師の漢方薬の意識調査結果を報告、投稿中である。過去に作成したがん代替治療のガイドブックに、新たな知見を盛り込み改訂版(第2版、2010年4月、第3版、2012年2月)を出版した。このガイドブックを用いがん治療の服薬指導での情報収集解析により、新たに医療従事者向けの診療手引き(2012年2月)を出版した。

全期間

(目的と到達目標)

補完代替医療（CAM）の効果や有害事象を科学的根拠に基づいて検証し、がん患者のみならず医療者にも正確な情報を提供することを目的に、がん領域でのあらたなCAMの効果やがん治療支持効果を評価する臨床試験を実施し報告する。過去に作成したがん代替治療のガイドブックに、新たな知見を盛り込み改訂し、さらなる情報収集・解析を行い、新たに医療従事者向けの診療手引きを作成することで、がん治療におけるCAM利用の混乱を整理解消に役立て、患者および医療者双方の無駄な負担を軽減させる。また、がん治療におけるCAMによる支持効果を明らかにすることで、がん治療における肉体的精神的苦痛の軽減に役立て、より良い治療環境の確立につなげる。

(研究終了時点の実績要点)

鍼治療ががん化学療法の神経障害の副作用軽減や、終末期各種苦痛症状緩和への有効性を発表し、論文化する。がん治療中からの歩行による運動療法では、患者のQOL低下の防止や副作用軽減効果の検証結果をまとめ、発表する。がん治療における漢方薬利用のアンケート調査の解析から、漢方利用における医療者の認識の現状と問題点を明らかにし、学会報告した。アンケートの解析結果を論文にまとめ投稿中である。

(以下上記実績要点と同じ)

新たな情報を盛り込み改訂したがんの補完代替医療ガイドブック（第2版）をがん治療の服薬指導に用い、患者および医療者双方のCAMにおけるコミュニケーションの促進成果を発表する。本研究でえられた知見も踏まえ医療従事者向けの、がんの補完代替医療（CAM）／診療手引きを出版し、がん代替治療のガイドブック（第2版）とともに、がん治療におけるCAM利用の無駄と混乱の整理解消や負担軽減に役立てる。

(年次評価時点の実績要点)

1. 患者向けCAMガイドブック第2版をこれまでに1万6千部配布した。がん薬剤管理指導における医療コミュニケーションと、CAM有効症例の客観的調査研究（Best Case Series Program）は症例集積解析中である。医療従事者向けの、がんの補完代替医療（CAM）／診療手引きを完成、出版した。
2. 鍼治療の抗がん剤による末梢神経障害に対する効果をQOL評価・行動量を用いた検証と、終末期がん患者の呼吸困難感に対する鍼灸治療の効果を検証する。がん治療における漢方薬の役割に関する研究では、医療者向けに

意識調査結果の発表と論文にまとめる。

3. 肺癌治療におけるラクトフェリン(LF)の有効性に関する研究では、進行・再発肺癌患者の化学療法におけるLFの抗腫瘍効果と安全性評価と至適投与量試験を実施中である。
4. がん治療における運動療法に関する研究では、歩行を中心とする運動療法を多施設で実施、症例集積中である。

研究方法

がんの代替医療の科学的検証に関する研究

研究方法は、最近の臨床試験の成果や新たなCAM情報の検証を基に、患者向けガイドブックの改訂を行う。医療者向けにもCAM利用者に助言するための指針となる資料作成(診療手引き)を行う。そのためのCAM有効症例の客観的調査研究(Best Case Series Program)のプロトコールを作成し症例集積を行う。がん治療でみられる副作用軽減に向けたCAMの有効性を、鍼治療・漢方治療・プロバイオティクス・運動療法で臨床試験を行い検証する。

がん化学療法でみられる有害事象軽減のためのCAMに関する研究では、頻用される抗がん剤(パクリタキセル)の末梢神経障害に対する鍼灸治療効果を、第II相試験として実施し(H21)、患者による主観的評価はvisual analogue scaleで、客観的感覚知覚評価をタッチテストで評価した(H22)。QOLや行動量、感覚閾値の評価ならびに症例を追加し検討報告する(H23)。

終末期がん患者の苦痛症状に対する鍼灸治療に関する研究プロトコールを作成(H21)し、鍼灸治療による苦痛症状(倦怠感・呼吸困難・便秘など)の改善度を、各症状評価票(MDASI-Jなど)を用いて評価した(H22)。終末期に薬物では効果の出にくいとされる食思不振や抑うつ傾向・便秘に鍼灸治療が期待でき、更に終末期にしばしばみられる呼吸困難感に対する鍼灸治療効果をVAS, モルヒネ投与量などを指標に評価する(H23)。

肺癌治療におけるラクトフェリンの有効性に関する研究では、再発肺癌患者へのラクトフェリンの抗腫瘍効果と安全性を比較検討する。乳糖を偽薬としたラクトフェリン(LF)との第II相比較試験を当初計画したが(H21)、詳細を検討のLFの結果安全性確認する必要があると判明し、LFの結果安全性と至適投与量の確認するプロトコールを作成した(H22)。LFの安全性と至適投与量を決定し(第I相臨床試験)、多施設での第II相臨床試験を計画した(H23)。

がん治療における運動療法に関する研究では、がん化学療法中から歩行を中心とした運動療法を介入させ、運動療法の妥当性を80例の第II相試験で検討する。評価項目は、QOL低下予防効果を中心に合併症・有害事象の発生頻度と、がん治療に与える影響(予定がん治療薬の割合など)と歩行能力を指標とし評価する。予備試験(H21)結果から、設定運動負荷量は化学療法中も達成可能であったが、通院の長期化に伴う習慣化に向けた調整が必要と判断され、H22年度後半より症例集積を開始した。今後各種のがん治療に試験対象を拡大し、H23年度から多施設共同研究とし症例集積し、集計報告する。運動療法の妥当性が確認できれば第III相試験を実施したい。

がん治療における漢方薬の役割に関する研究では、医療者向け意識調査を計画(H21)実施し、909名の医師、708名の薬剤師から回答を得た(H22)。調査結果をH23年度に学会報告しまとめる。

がん代替療法における薬剤管理指導による医療コミュニケーションに関する研究では、CAMに関する情報交換不足が患者・医療者間に存在することが明らかになった(H21)。CAMが治療の障害となる場合もあり、がん治療の薬剤管理指導に役立つ第II相臨床試験を開始し(H22)、H23年度にデータ集積・評価し発表する。さらにH23年度には薬剤管理指導における医療コミュニケーションについての指針案を作成し、かつ医療者向けの診療向マニュアルを作成する。

新たなCAM情報収集・評価としてBest Case Series Programをホームページ上で公開募集(H21)を開始し、症例集積した。がんの補完代替医療ガイドブック第2版を作成し、図書館などを通じ約1万6千部を配布した。新たに明らかになった情報を加えてH23年度に医療者向けの診療手引きを作成した。これらの臨床試験結果も踏まえて、CAMの情報の検証を行い、患者向けガイドブックを改定し第3版を出版した。

研究成果と考察

全期間（研究終了時）

種々雑多な CAM に関する判断の指針となるべき、がんの補完代替医療ガイドブック第3版と医療者向け CAM 診療手引きを公表・出版した。これらを活用し、CAM 利用に関する混乱解消に役立てる。鍼治療を中心に、明らかにしたがん治療での支持効果を有効に活用し、がん治療における苦痛・障害の軽減などに役立てる。

倫理面への配慮

研究計画の立案・作成・実施・公表におけるそれぞれの過程で、倫理面での問題に慎重に対処する。あらゆる研究は、実施医療機関のヘルシンキ条約に基づく倫理委員会における承認を必須条件とした。臨床試験において、被験者本人から同意を得るのは必須とし、データ管理などでは個人が識別できないように留意した。得られた研究成果は、個人が特定できないように配慮し、可能な限り情報は公開する。また、関連業者やマスメディアには、公正な立場を常に心がけ対応する。

本研究に関連する、本研究期間中の主な発表論文等

(雑誌論文)

- K. Maeda, T. Ito, S. shioda. Medical aromatherapy practice in Japan. In Essence 10(4)-spring, 14-16, 2012
- RM Hackman, T. Ito, and RW deVere White. Mushroom Nutraceuticals: Challenges and Opportunities for Integrative Medicine. Phytomedicine 2012(in press)
- K. Kishi, K. Yutaka, I. Miyasiro, H. Imamura, J. Fujita, J. Gofuku, C. Ebesui, S. Iijima, J. Shimizu, A. Miyamoto, K. Umeshita, T. Ito, M. Mori, Y. Doki. Multicenter Phase II study of antimicrobial prophylaxis in low-risk patients undergoing total gastrectomy for gastric cancer. Surgery Today, 2012(in press).
- Suzuki Y, Ohno S, Okuyama R, Aruga A, Yamamoto M, Miura S, Yoshioka H, Mori Y, Suzuki K: Determination of reactive oxygen species production by neutrophils. Anticancer Res. 32(2):565-70 2012.
- 宇留島隼人、伊藤壽記、前田和久 チアゾリジン誘導体と膀胱がん Vascular Medicine 8(1);85-88, 2012.
- 伊藤壽記 日本統合医療学会テキスト 新版「基礎と臨床」統合医療とがん 洋文社 Part2 実践篇、統合医療とがん 洋文社、p24-41, 2012
- Y. Yoshioka, S. Shimizu, T. Ito, M. Taniguchi, M. Nomura, T. Nishida, Y. Sawa. p53 inhibits vascular endothelial growth factor expression in solid tumor. J Surg Res :1-7, 2011.
- 須見遼子、前田和久、紳谷寿美子、津秦正枝、伊藤壽記 メタボリックシンドロームとその予備軍に対するアセスメントシート (Good Diet Study Sheet) を利用した生活指導効果 栄養-評価と治療 28;45-48, 2011.
- 阪上未紀、前田和久、須見遼子、東城博雅、伊藤壽記 キャリアオイルの皮膚吸収とその効能および解析 - リポカイン・パルミトレイン酸を豊富に含むマカデミアナッツオイルについて - 日本アロマセラピー学会誌 10(1); 39-44, 2011.
- 伊藤壽記、前田和久、阪上未紀、須見遼子、平井 啓、真田泰明、福田文彦、石崎直人 総説 生活習慣病に対する統合医療的アプローチ 日本統合医療学会 4(1); 14-23, 2011
- Ohno S, Sumiyoshi Y, Hashine K, Shirato A, Kyo S, Inoue M: Phase I clinical study of the dietary supplement, Agaricus blazei Murill, in cancer patients in remission. Evid Based Complement Alternat Med. 2011 (in press)
- Ohno S, Takano F, Ohta Y, Kyo S, Myojo S, Dohi S, Sugiyama H, Ohta T, Inoue M: Frequency of myeloid dendritic cells can predict the efficacy of Wilms' tumor 1 peptide vaccination. Anticancer Res. 31(7):2447-52, 2011
- Dohi S, Ohno S, Ohno Y, Takakura M, Kyo S, Soma G, Sugiyama H, Inoue M: WT1 peptide vaccine stabilized intractable ovarian cancer patient for one year: a case report. Anticancer Res. 31(7):2441-5, 2011
- Maeda K, Evidence-Based Good Diet and Metabolic Stem Cells for Integrative Dietary Approach against Metabolic Syndrome J Traditional Medicine 2011 28(1): 39-42
- 大野智: がん民間療法との付き合い方. medicina 48(13):2164-2168 2011
- 大野智: 緩和ケアで期待される補完代替医療の科学的検証. 薬局 62(11):130-138, 2011
- 大野智: 補完代替医療の現状と展望. 日本食品機械研究会誌 31(3): 1-8, 2011
- Association between Plasma 25-hydroxyvitamin D and colorectal adenoma according to dietary calcium intake and vitamin D receptor polymorphism. Yamaji T, Iwasaki M, Sasazuki S, Sakamoto H, Yoshida T, Tsugane S. Am J Epidemiol. 2012 Feb; (3):236-44.

- Gender difference in the association of insulin and the insulin-like growth factor axis with colorectal neoplasia. Yamaji T, Iwasaki M, Sasazuki S, Tsugane S. *Int J Obes (Lond)*. 2012 Mar;36(3):440-7.
- S. Sawada, H. Suehisa, M. Yamashita, M. Nakata, N. Okumura, K. Okabe, H. Nakamura, H. Tada, S. Toyooka, H. Date. Current status of postoperative follow-up for lung cancer in Japan Questionnaire survey by the Setouchi lung cancer study group-A0901-General Thoracic and Cardiovascular Surgery ; 60:104-11, 2011.
- Suehisa H, Yamashita M, Komori E, Sawada S, Teramoto N. Solitary fibrous tumor of the mediastinum. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. (2010) 58(4):205-208.
- K. Shien, M. Yamashita, M. Okazaki, H. Suehisa, S. Sawada, A. Kurita, Pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma with a pulmonary arteriovenous fistula. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 59:371-375, 2011.
- Yamashita M, Komori E, Sawada S, Suehisa H, Nozaki I, Kurita A, Takashima S. Pulmonary angioplastic procedure for lung cancer surgery. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* (2010) 58:19-24
- 澤田茂樹、山下素弘、小森栄作、末久弘、荻野敦子、野上尚之、畝川芳彦、新海哲・当院の肺癌術後補助化学療法の実況・化学療法・2010・第37巻第3号:439
- H. Kato, T. Nishimura, N. Ikeda, T. Yamada, T. Kondo, N. Saijo, K. Nishio, J. Fujimoto, M. Nomura, Y. Oda, B. Lindmark, J. Maniwa, H. Hibino, M. Unno, T. Ito, Y. Sawa, H. Tojo, S. Egawa, G. Edula, M. Lopez, M. Wigmore, N. Inase, Y. Yoshizawa, F. Nomura, G. Marko-Varga. Development for a growing Japanese patient population: Facilitating new technologies for future health care. *J Proteomics* 2011 May 16;74(6):759-64. Epub 2010 Dec 22.
- Kurashiki Y, Maeda K, Yoshioka E, Fukuhara A, Imagawa A, Otsuki M, Shimomura I. Measurement of adiponectin production from differentiated metabolic stem cells. *Horm Metab Res*. 2010 May;42(5):318-23. Epub 2010 Mar 10.
- Arai H, Hirai K, Harada K, and Tokoro A. Physical activity and psychological adjustment in Japanese advanced lung cancer patients in chemotherapy: The feasibility of intervention. *International Journal of Sport and Health Science* 8, 15-21, 2010.
- 伊藤壽記:第 59 回日本鍼灸学会会長講演. これからの医療の新展開、全人的統合医療を目指して. *日本鍼灸学会雑誌* 60(5); 69-80, 2010.
- 伊藤壽記:癌とメタボリックシンドローム - 統合医療的アプローチによるライフスタイルへの介入 - *日本医事新報* 4479; 90-91, 2010.
- 伊藤壽記、前田和久、阪上未紀、須見遼子、平井啓、真田泰明、福田文彦、石崎直人:生活習慣病に対する統合医療的アプローチ *日本統合医療学会* 3(2):14-23, 2010
- Ri G, Ohno S, Furutani M, Furutani Y, Tsukahara T, Hagita N, Haruyama H, Nakamura S, Yamamoto T, Matsuoka R: An indication for correlation between the serum ADA level and gastric cancer risk. *Anticancer Res*. 30(6):2347-9, 2010
- 2) Dohi S, Ohno S, Ohno Y, Kyo S, Soma G, Sugiyama H, Inoue M: WTI expression correlates with angiogenesis in endometrial cancer tissue. *Anticancer Res*. 30(8):3187-92, 2010
- Nakamura M, Kyo S, Zhang B, Zhang X, Mizumoto Y, Takakura M, Maida Y, Mori N, Hashimoto M, Ohno S, Inoue M: Prognostic impact of CD133 expression as a tumor-initiating cell marker in endometrial cancer. *Hum Pathol*. 41(11):1516-29, 2010
- Mori N, Kyo S, Nakamura M, Hashimoto M, Maida Y, Mizumoto Y, Takakura M, Ohno S, Kiyono T, Inoue M: Expression of HER-2 affects patient survival and paclitaxel sensitivity in endometrial cancer. *Br J Cancer*. 103(6):889-98, 2010
- 大野智: 補完代替医療とリスクマネジメント. *助産師* 64(3):8-13, 2010
- 大野智: がんの医療現場における機能性食品の現状と課題. *ケミカルエンジニアリング* 55(4):277-284, 2010
- 大野智: がん患者のサバイバーシップ; がんの補完代替療法. *腫瘍内科* 5(2):156-164, 2010
- 大野智: 伝統医療・補完医療・代替医療. *理学療法ジャーナル* 44(7):590, 2010
- 大野智: 婦人科悪性腫瘍における代替医療の実際. *婦人科治療* 100(3):340-346, 2010
- 大坂巖: うつ状態 よくわかるがん緩和医療—患者と医療者の必携エッセンス— p.44-52 *医薬ジャーナル* 2010年
- 今津嘉宏: 腸管運動異常に対する漢方治療・外科治療・2010・Vol. 103 No. 6:552-558

- ・田島敏秀、河西明代、小野寺成実、岸郁子、亀井清、鳥海史樹、今津嘉宏・ovarian autoamputationにより Douglas 窩に移植された左卵巣原発成熟嚢胞性奇形腫の1例・日本産科婦人科学会東京地方部会会誌・2010・59巻1号:99-103
- ・伊藤亜希、西村甲、宗形佳織、徳永秀明、松浦恵子、今津嘉宏、渡辺賢治・漢方生薬処方の調剤技術料に関する現在の問題・日本東洋医学雑誌・2010・61巻1号:19-26
- ・Hishida T, Nagai K, Mitsudomi T, Yokoi K, Kondo H, Horinouchi H, Akiyama H, Nagayasu T, Tsuboi M: Japan Clinical Oncology Group. . Salvage surgery for advanced non-small cell lung cancer after response to gefitinib. J Thorac Cardiovasc Surg. (2010) 140: e69-71.
- ・Kato Y, Peled N, Wynes MW, Yoshida K, Pardo M, Mascaux C, Ohira T, Tsuboi M, Matsubayashi J, Nagao T, Ikeda N, Hirsch FR. Novel epidermal growth factor receptor mutation-specific antibodies for non-small cell lung cancer: immunohistochemistry as a possible screening method for epidermal growth factor receptor mutations. J Thorac Oncol. (2010)5:1551-8
- ・Saji H, Furukawa K, Tsutsui H, Tsuboi M, Ichinose S, Usuda J, Ohira T, Ikeda N. Outcomes of airway stenting for advanced lung cancer with central airway obstruction. Interact Cardiovasc Thorac Surg. (2010)11:425-8.
- ・Takahashi T, Yamamoto N, Nukiwa T, Mori K, Tsuboi M, Horai T, Masuda N, Eguchi K, Mitsudomi T, Yokota S, Segawa Y, Ichinose Y, Fukuoka M, Saijo N. Phase II study of erlotinib in Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer. Anticancer Res. (2010)30:557-63.
- ・Saji H, Tsuboi M, Matsubayashi J, Miyajima K, Shimada Y, Imai K, Kato Y, Usuda J, Kajiwara N, Uchida O, Ohira T, Hirano T, Mukai K, Kato H, Ikeda N. Clinical response of large cell neuroendocrine carcinoma of the lung to perioperative adjuvant chemotherapy. Anticancer Drugs. (2010)21:89-93.
- ・Ohno S, Kyo S, Myojo S, Dohi S, Ishizaki J, Miyamoto K, Morita S, Sakamoto J, Enomoto T, Kimura T, Oka Y, Tsuboi A, Sugiyama H, Inoue M: Wilms' tumor 1 (WT1) peptide immunotherapy for gynecological malignancy. Anticancer Res. 29(11):4779-4784, 2009
- ・Ri G, Ohno S, Yamamoto T, Ito E, Furutani M, Furutani Y, Umeda Y, Tsukahara T, Hagita N, Matsuoka R: Serum levels of CA15-3, KL-6 and BCA225 are positively correlated with each other in the general population. Anticancer Res. 29(10):4239-42, 2009
- ・Ohno S, Dohi S, Ohno Y, Kyo S, Sugiyama H, Suzuki N, Inoue M: Immunohistochemical detection of WT1 protein in endometrial cancer. Anticancer Res. 29(5):1-5, 2009
- ・Ohno S, Ohno Y, Suzuki N, Soma G, Inoue M: High-Dose Vitamin C (ascorbic acid) therapy in the treatment of patients with advanced cancer. Anticancer Res. 29(3):809-15, 2009
- ・Dohi S, Ohno S, Ohno Y, Soma G, Kyo S, Inoue M: Correlation between WT1 expression and cell proliferation in endometrial cancer. Anticancer Res. 29(11):4887-92, 2009
- ・大野智: 悪性腫瘍における補完代替医療の実際. 日本産科婦人科学会雑誌 61(9): 362-367, 2009
- ・Osaka I, Kurihara Y, Tanaka K, Nishizaki H, Aoki S, Adachi I. Attitudes towards and current practice of Complementary and Alternative Medicine in Japanese palliative care units. Journal of Palliative Medicine (2009)12(3):239-244.
- ・Osaka I, Kurihara Y, Tanaka K, Nishizaki H, Aoki S, Adachi I. Endocrinological evaluations of brief hand massages in palliative care. J Altern Comple Med (2009) 15(9):981-985.
- ・今津嘉宏・「症状・症候に対する漢方治療」がん治療時の副作用・診断と治療・2009・97巻8号:1626-1632
- ・今津嘉宏・大建中湯・治療・2009・91巻6号:1800-1801
- ・杉浦八十生, 鳥海史樹, 戸枝弘之, 原貴之, 越田佳朋, 今津嘉宏, 赤松秀敏, 向井清・腭体部前面に follicular dendritic cell tumor を認めた1例・日本消化器外科学会雑誌・2009・42巻3号:263-269
- ・Hamada C, Tsuboi M, Ohta M, Fujimura S, Kodama K, Imaizumi M, Wada H. Effect of Postoperative Adjuvant Chemotherapy with Tegafur-Uracil on Survival in Patients with Stage IA Non-small Cell Lung Cancer: An Exploratory Analysis from a Meta-Analysis of Six Randomized Controlled Trials. J Thorac Oncol. (2009) Oct 28. [Epub ahead of print]

(学会発表)

- ・伊藤亜希、宗形佳織、今津嘉宏、渡辺賢治「医師からみた薬剤師」日本薬学会第132年会, 2012
- ・須見遼子、前田和久、平井啓、石崎直人、福田文彦、阪上未紀、伊藤壽記「生活習慣病型癌患者を対象とした統合的ライフスタイル介入の試み(第3報)」第32回日本肥満学会(2011.9/23~24・兵庫県淡路市)
- ・大野智、奥山隆二、有賀淳、杉山治夫、山本雅一「免疫増強アジュバントを併用したWT1 ペプチドワクチン療法第1相臨床試験」第49回日本癌治療学会総会, 2011 (※優秀演題賞受賞)
- ・大野智、高野文英、土肥聡、京哲、石崎純子、宮本謙一、太田富久、杉山治夫、井上正樹「末梢血中の骨髓系樹状細胞数はWT1 ペプチドワクチン療法の予後予測因子となる」第70回日本癌学会総会, 2011
- ・大野智「がんの医療現場における機能性食品の有用性」第2回「日本を健康にする！」研究会シンポジウム, 2011
- ・大野智「補完代替医療と癌」埼玉鍼灸学会特別講演, 2011
- ・大野智「がん治療における補完代替医療～正しく活用するために～」第8回群馬がん看護フォーラム特別講演, 2011
- ・大坂巖「終末期がん患者の症状緩和に対する鍼治療の展望」第16回日本緩和医療学会学術大会, 2011
- ・Association of Plasma 25-hydroxyvitamin D and Vitamin D Receptor Polymorphisms with Colorectal Adenoma. Yamaji T, Iwasaki M, Sasazuki S, Sakamoto H, Yoshida T, Tsugane S. 第70回日本癌学会学術総会, 2011
- ・伊藤壽記、前田和久、阪上未紀、須見遼子、平井 啓、真田泰明、福田文彦、石崎直人・生活習慣病に対する統合医療的アプローチ・日本統合医療学会(in press, 2010)
- ・福田文彦、石崎直人、伊藤和憲、久保春子、阪上未紀、須見遼子、平井 啓、前田和久、北小路博司、伊藤壽記：鍼灸を導入した統合医療の実践例「大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座における鍼灸を導入した補完医療」第59回(社)全日本鍼灸学会学術大会 シンポジウム
- ・大野智：婦人科悪性腫瘍に対するWT1 ペプチドがん免疫療法、第48回日本癌治療学会学術集会パネルディスカッション, 2010
- ・大野智：婦人科悪性腫瘍における補完医療の取り組み、第58回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会総会クリニカルフロントライン, 2010
- ・Ohno S: Survey of effective cases for complementary and alternative medicine(Best Case Series Program). The 18th International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, Special Lecture, 2010
- ・大野智：がんの医療現場における統合医療の現状と今後の展望. 第59回(社)全日本鍼灸学会学術大会シンポジウム, 2010
- ・今津嘉宏・シンポジウム13 「漢方医学教育のミニマム・スタンダードについて考える-患者のニーズに即した全人的医療を行うために-」漢方医学教育のミニマム・スタンダードについて考える 患者のニーズに即した全人的医療を行うために研修医教育に漢方医学をどのように取り入れるか:2010:第61回日本東洋医学会学術総会

(書籍)

- ・伊藤壽記 日本統合医療学会テキスト 新版「基礎と臨床」統合医療とがん 洋文社(2012 inpress)
- ・大野智:勝俣範之(編集):「がん診療Update マニュアル」、分担項目:第9章-2 補完代替医療とそのエビデンス、株式会社シーニュ(印刷中)
- ・大野智:今津嘉宏(編集):「がん漢方」、分担項目:第3章-5 緩和ケアで期待される補完代替医療の科学的検証、南山堂(印刷中)
- ・大野智:猪岡尚志、光本泰秀(編集):「応用細胞補完代替医療学」、分担項目:第一部 補完代替医療の現状と課題および今後の展望、大学教育出版(印刷中)
- ・「Integrative Oncology」D. Abrams & A. Weil 編 監訳; 伊藤壽記、上島悦子、「がんの統合医療」メディカルサイエンス・インターナショナル社(2010)
- ・千代豪昭、黒田研二 編集 学生のための医療概論(第3版)医学書院 伊藤壽記 第3章 現代医療の新たな領域、補完代替医療から統合医療-さらなる医療の質の向上を求めて- 212-224, 2010.
- ・伊藤壽記、上島悦子(監訳):「がんの統合医療」、分担項目:第2章「がんの初期治療としての代替療法」、メディカルサイエンス・インターナショナル(2010)(原著:Donald I. Abrams, Andrew T. Weil(編集): Integrative Oncology, Oxford University Press(2009))
- ・市民のためのがん治療の会(編集):「がん医療の今」、分担項目:第6章「がんの補完代替医療」、市民のためのがん治療の会出版(2010)
- ・今津嘉宏・癌と臨床栄養 日本医事新報社 丸山道生編 分担執筆 2010 p.122-129

(知的財産権)

(政策提言 (寄与した指針等))

- ・がんの補完代替医療 (CAM) / 診療手引き
- ・がんの補完代替医療ガイドブック (第3版)

(その他)

【学生講義、市民公開講座、研修会など】

- ・大野智 がんの補完代替医療～健康食品との向き合い方～ シャローム (がん患者会) 患者の集い特別講演 (2012. 3. 30) 埼玉
- ・大野智 がん医療現場において民間療法・補完代替医療とどう向き合うか 地域医療連携研修会 Oncology & Kampo Seminar 特別講演 (2012. 3. 17) 静岡
- ・大野智 がんの補完代替医療における臨床研究の意義 富山県医師会治験セミナー特別講演 (2012. 3. 3) 富山
- ・大野智 代替療法のエビデンス 国立がん研究センターがん対策情報センターメディアセミナー講師 (2012. 2. 16) 東京
- ・大野智 補完代替医療の展開と健康食品への期待 食品関連産業交流会特別講演 (2012. 1. 10) 札幌
- ・大野智: 統合医療展 2011 統合医療セミナー: 「がん代替医療における有効症例の調査研究について」 主催: 統合医療展、2011
- ・大野智: オレンジティ第34回定例会 特別講演: 「医療情報の見極め方「がん」に効く」の本当の意味」 主催: NPO 法人オレンジティ (がん患者会)、2011
- ・大野智: 第2回 乳がん相談のためのピアサポーター養成講座: 「がんの補完代替医療～医療情報の見極め方～「がん」に効く」の本当の意味」 主催: ほほえみネットワーク (がん患者会) 2011
- ・大野智: 平成23年度第12回高知大学大学院博士課程医学専攻DCセミナー: 「健康情報の見極め方とヘルスコミュニケーションのコツ」 主催: 高知大学
- ・大野智: アピタル乳がん夜間学校課外授業 in 東京: 「乳がんに対する健康食品・サプリメント」 主催: 朝日新聞アピタル、2011
- ・大野智: 日本助産師会兵庫県支部研修会: 「補完代替医療とリスクマネジメント」 主催: 日本助産師会兵庫県支部、2011
- ・大野智: 滋賀医科大学医学部附属病院緩和ケア講演会: 「がん医療現場において民間療法・補完代替医療とどう向き合うか」 主催: 滋賀医科大学附属病院、2011
- ・大野智: 平成21年度安全対策委員会・助産所部会企画助産師のためのリスクマネジメント研修会: 「産科領域の補完代替医療リスクマネジメント」 主催: 日本助産師会、2010
- ・大野智: 神奈川県助産師会助産所部会主催研修会: 「リスクマネジメント「代替療法について」」 主催: 神奈川県助産師会、2010
- ・大野智: 日本助産師会埼玉県支部安全対策委員会・助産所部会合同企画研修会: 「産科領域の代替療法とリスクマネジメント」 主催: 日本助産師会埼玉県支部、2010
- ・大野智: CNJ がん医療セミナーもっと知ってほしい「がん医療情報のホント」のこと: 「がんに対してサプリメントは有効ですか?」 主催: NPO 法人キャンサーネットジャパン、2010
- ・大野智: NPO 法人グループネクサスライムグリーンリボン記念シンポジウム: 「代替療法の科学的根拠と正しい向き合い方」 主催: NPO 法人グループネクサスライムグリーンリボン (がん患者会)、2010
- ・大野智: 第2回がん統合医療シンポジウム: 「がん補完代替医療の現状と課題」 主催: NPO 法人緑の風 (がん患者会)、2010
- ・大野智: 第四回山梨がんフォーラム 特別講演: 「がんの補完代替医療法との向き合い方」 主催: 山梨まんまクラブ (がん患者会)、2010
- ・大野智: やまぶきの会 第9回勉強会 特別講演: 「補完代替医療との正しい向き合い方」 主催: やまぶきの会 (がん患者会)、2010
- ・大野智: 日本看護協会研修会: がんの基礎知識と看護「がんと補完代替医療」 主催: 日本看護協会、2010
- ・大野智: 平成22年度札幌第1支部・第4支部合同助産師職能学習交流会: 「補完代替医療を考えよう～安全・安楽・快適を求めて」 主催: 日本助産師会札幌第1支部・第4支部、2010
- ・大野智: 公益財団法人日本対がん協会研修会: 「がんの補完代替医療」 主催: 公益財団法人日本対がん協会、2010
- ・大野智: 平成22年度安全対策委員会・助産所部会企画助産師のためのリスクマネジメント研修会: 「補完代替医療と

リスクマネジメント」主催：日本助産師会、2010